

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報							
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要				
大神山公園			(指定管理者名) 公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要) 都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。				
指定期間							
R5.4.1 ～ R10.3.31（5年間）							
2 施設名		3 収支(単位:千円)					
大神山公園			令和6年度	令和5年度	令和4年度	公園別支出額	
		項目	金額	金額	金額		
		収入 計	69,649	66,788	64,811	大神山公園:70,188	
		内訳	指定管理料	69,649	66,788		64,811
			利用料金		0		0
			その他収入		0		0
		支出 計	70,188	66,364	64,154		
収支差	△539	424	657				
4 管理運営の概要							
・マイクロプラスチック回収活動では新たに小笠原海洋センターと連携し、大型客船寄港時にあわせて開催することで、動員効率をアップすることができた。 ・小笠原支庁自然公園担当、小笠原村役場産業観光課、小笠原村観光協会、小笠原海洋センターとパークミーティングを初開催し、今後の公園管理について意見交換を行い、連携強化に努めた。							
5 管理状況							
①維持管理							
・樹木点検を見直し、DXを活用。樹木点検アプリを導入することで、紙媒体での点検と手入力の二度手間を解消し、効率化した。またタブレットを活用した本社樹木医とリモート樹木診断を実施することで、小笠原という離れた環境においても点検と診断のレベルを下げることなく、数年単位の計画的な維持管理を行った。 ・樹木医の診断をもとに台風被害予防のため重点的な剪定を行うことで、落枝事故は発生しなかった。 ・大村海岸に設置しているウミガメ迷走防止堤をブラッシュアップし、耐候性のネットにサンゴダストを入れて積むことで、風や波にさらされても崩れない堤が完成した。その結果、産卵巣数は過去7年間で最高の265巣と多くのウミガメが訪れ、産卵巣数が増加した。							
②利用者への対応							
・マイクロプラスチック回収活動では、海ごみを回収するだけでなく形を変えて普及啓発に活用できるよう海ごみアートの制作を実施。パイの形状がハロウィンのランタンに似ていることからハロウィンフェスティバルと同時に海ごみアート制作体験を初開催した。 ・バイオアース映画祭では、昨年度に引き続きサマーフェスティバルの時期に同時期に2日間2スクリーンで開催。海と共に生きる人々を紹介するドキュメンタリー映画、フィッシュピーブルなど5タイトルを上映した。							
6 利用者アンケート結果							
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート							
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応		
大神山公園	4.7	4.6	4.5	4.8	4.7		
7 入園者数の状況（単位：人）							
施設名	当該年度	分析					
大神山公園	474,934	イベント開催時のキッチンカー誘致や、工作教室など多様な活用方法を展開によって、人数が増加した。					
合 計	474,934						



大神山公園

世界自然遺産小笠原の玄関口
Trigger Park 大神山公園



所在地：東京都小笠原村字東町／開園面積：15.31ha

創意工夫による効果的な維持管理・樹木その他植物の管理にDXを活用

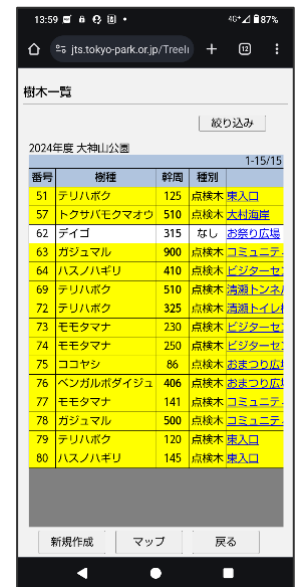
NEW 樹木点検を見直し スマホアプリでDX化！



- 昨年度清瀬地区で起きたモモタマナ倒木による停電のような被害を繰り返さないよう、**点検リストに入れる樹木を倒木時の被害想定の大きさも考慮した優先度とし**、道路沿いの大径木を中心に5本追加し、完成した点検木リストを小笠原支庁と共有した。本社維持係と公園サービスセンターが一丸となって**維持管理体制を強化**。
- 今までの樹木点検では紙媒体で点検し、発見した異常や変化のあった樹形をデジタルカメラで撮影、サービスセンターでパソコンにデータを取り込み、結果を入力するという手間がかかっていたが、**今年度から導入した樹木点検アプリにより、写真撮影時にGPSによる位置情報を記録し、リアルタイムに樹木医が閲覧できるようになった**。
- 都政新報に「スマホで樹木管理を効率化」と掲載され、読売新聞では「**樹木点検アプリで時短**」の見出しで全国紙に取り上げられた。



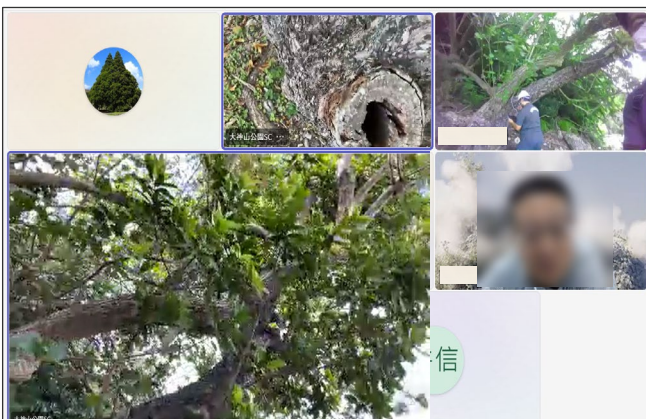
樹木の位置図画面



点検樹木リスト画面

Update 離島にも質の高い維持管理を！

- 年4回実施する樹木点検の結果をもとに、大神山公園で**タブレットを使い本社樹木医とリモート樹木診断を実施**。樹木医の指示で現地検査員が打音検査、鋼棒貫入試験、洞にカメラを近づけて腐朽の有無などを調査した。
- 小笠原という離れた環境においても点検と診断のレベルを下げることなく、**迅速・効果的な維持管理が実現**できるようになった。



Update 台風被害予防剪定で落枝事故0件！

- リモート樹木診断の結果をもとに**維持管理計画を立て**、大村中央地区1か所と清瀬地区2か所の計3件の処理工事を発注。斜面に生えている大径木等を、隣接地に台風被害が出ないように**伐採15本、剪定8本を実施**することで、**令和6年度は倒木・落枝事故0件を達成！**青空が見えるようになり、隣接する通学路を歩く小学生にも安心して登下校してもらえるようになった。





新たな連携先で広がるマイクロプラスチック削減へ向けた海岸漂着物回収活動

Update 大型客船寄港時に開催することで動員効率UP！

新たに小笠原海洋センターと連携。につぼん丸や飛鳥IIなどの大型客船が父島に寄港する際に実施するウミガメの放流にあわせて、合計**470人**に**マイクロプラスチック回収普及啓発活動**を効果的に実施。



ウミガメの放流に集まった人に効果的に普及啓発

Update 昨年度比130%を達成！過去最高の774人が参加

交通少年団海岸清掃 参加者**30人**
環境省ごみゼロWEEK(園外) 参加者**21人**
TOKYO海ごみゼロアクション 参加者**209人**
NAMIMATIビーチクリーン 参加者**44人**
合計で年間**14回**開催し**774人**が参加。



園内の大村海岸で活動する交通少年団

Update 島内の各団体と連携した海岸漂着物回収活動

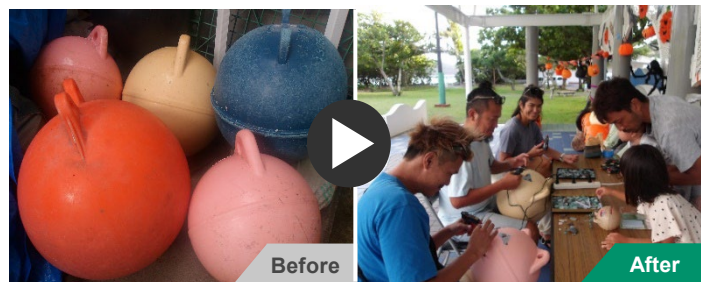
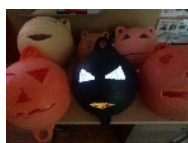
イベント以外でも大型の漂着物が海岸に流れ着いた時は、**小笠原支庁、小笠原海上保安署、海上自衛隊父島分遣隊、小笠原警察署との協力**で回収活動を行い、1年を通して綺麗な海岸を保つことができた。



園外の洲崎海岸でも大量の漂着物を回収

NEW 回収した海岸漂着物で作る「海ごみアート」

- 海ごみを回収するだけでなく**形を変えて普及啓発に活用**できるよう海ごみアートの制作を開始。
- ブイの形状がハロウィンのランタンに似ていることから**ハロウィンフェスティバルと同時に海ごみアート制作体験を開催し、3家族**が参加。
- 完成したお化けランタンにLEDライトを内蔵し、目と口が光るように制作。**緑と水の市民カレッジ**や**日比谷公園のプロギングイベント**などに展示した。今後も新たな海ごみアートの作成を続け**海岸漂着物問題の周知に活用**していく。



回収して洗った漂着ブイ

参加者の手で飾り付けて完成



日比谷公園のプロギングイベント！



緑と水の市民カレッジで展示された様子

大村海岸をウミガメの産卵が更にしやすい環境に整備して産卵巣数を増やす

NEW 台風でも崩れないウミガメ迷走防止堤が完成

- 昨年度から設置している迷走防止堤は、台風の度に積んだサンゴダストが崩れてしまうため、今年度**耐候性のネットにサンゴダスト**を入れて積み、**風や波にさらされても崩れない堤**が完成。
- 産卵巣数は**過去7年間で最高の265巣**を数え、大村海岸にたくさんのウミガメが産卵にやってくれた。小笠原海洋センタースタッフ指導の下、大神山公園サービスセンター職員と**小笠原小学校の児童**で採卵を実施し、**アオウミガメの卵を保護**した。掘り出した卵は**海洋センターで孵化**を行い、**生存率が高くなる生後半年から1年ほど飼育して各イベントで海へ放流**している。



産卵巣から採卵している様子